

帯状疱疹予防接種（任意接種）のお知らせ

当該事業は予防接種法に基づかない任意の予防接種に対する助成事業であり、接種の義務はありません。接種を受けるかどうかはご自身の健康状態を考慮したうえでご判断ください。

帯状疱疹は、加齢がリスクとされ、70歳代で発症する方が最も多くなっています。

帯状疱疹は、過去に水痘（水ぼうそう）にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が出現する病気です。合併症の一つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、入院にまで至る場合もあります。

1 令和8年度 任意接種対象者

接種日時点で江戸川区に住民登録がある、50歳以上65歳未満の方で、定期接種対象者以外の方

※ 過去に帯状疱疹の予防接種を受けた方は原則 **対象外** です。

【参考・定期接種対象者】 下記の条件に当てはまる方は、この任意接種助成事業の対象にはなりません。

- ①令和8年4月1日～令和9年3月31日の間に満65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる方
- ②60歳以上65歳未満で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害により身体障害者手帳1級をお持ちの方

2 予防接種の場所・日時

江戸川区の指定医療機関で受けてください。日時は医療機関によって異なりますので、あらかじめ連絡して確かめてください。（帯状疱疹ワクチン任意接種費用一部助成事業は、江戸川区独自の制度のため江戸川区内の指定医療機関に限られます）

3 実施期間

令和8年4月1日～令和9年3月31日

4 予防接種の費用等**自己負担額・接種回数**

以下のとおり、接種するワクチンの種類に応じた自己負担額で接種できるように接種費用の一部を助成いたします。医療機関の会計では以下の自己負担額をお支払いください。

	ビケン(生ワクチン)	シングリックス(不活化ワクチン)
自己負担額	4,000円/回	11,000円/回
接種回数	1回	2回

※ 指定医療機関以外で受ける場合や上記接種期間外に接種を受けた場合は、全額自己負担となります。

5 予防接種を受けるときには

- ① 日頃から、検温をして平熱を把握し、健康状態をよく観察して、体調の良い時に受けてください。
- ② 接種の前日は、入浴（またはシャワー）をして、体を清潔にしましょう。
- ③ 疑問や不安がある場合には、接種する医師に相談してください。

6 予防接種を受けたあとは

- ① 接種当日は、激しい運動は避け、接種部位を清潔に保ち、接種後の体調の変化に留意してください。
- ② 接種部位の異常反応や体調の変化、さらに高熱、けいれん等の異常な症状がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

7 接種ワクチンについて

带状疱疹ワクチンには生ワクチン(阪大微研)と不活化ワクチン(GSK 社)の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続期間、副反応などの特徴が異なりますが、いずれも、带状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。

		ビケン(生ワクチン)	シングリックス(不活化ワクチン)
接種回数・方法		1回(皮下に接種)	2回(筋肉内に接種)
標準的な接種スケジュール		—	2か月～6か月の間隔において2回接種 ※病気や治療により、免疫の機能が低下した、または低下する可能性がある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できます。
接種できない方		<ul style="list-style-type: none"> ・病気や治療によって免疫が低下している方 ・妊娠中または妊娠の可能性のある方 	免疫の状態に関わらず接種可能です。
		<ul style="list-style-type: none"> ・明らかな発熱のある方(接種する医療機関で測った体温が37.5℃以上の場合) ・重い急性疾患にかかっていることが明らかな方 ・接種するワクチンの成分によって、アナフィラキシー*を起こしたことのある方 ・その他、医師が予防接種を行うことが不相当であると判断した場合 	
接種に注意が必要な方		輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上置いて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。
		<ul style="list-style-type: none"> ・心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けている方 ・過去の予防接種で接種後2日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーを疑う症状のみられた方 ・過去にけいれんを起こしたことがある方 ・過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方 ・接種するワクチンの成分によって、アレルギーを起こすおそれのある方 	
ワクチンの効果	接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
	接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
	接種後10年時点	—	7割程度の予防効果
主な副反応		発赤(30%以上)、そう痒感、熱感、腫脹、疼痛、硬結(10%以上)、発疹、倦怠感(1%以上)、アナフィラキシー*、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎(頻度不明)	疼痛(70%以上)、発赤、筋肉痛、疲労(30%以上)、頭痛、腫脹、悪寒、発熱、胃腸症状(10%以上)、そう痒感、倦怠感、その他の疼痛(1%以上)、ショック、アナフィラキシー*(頻度不明)
異なる種類のワクチンとの接種間隔		他の生ワクチンと27日以上の間隔をおいでください。	制限はありません。
		医師が特に必要と認めた場合に、他のワクチンとの同時接種が可能です。	

※アナフィラキシーとは、通常、接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと

予防接種を受けたあと、気になる症状や体調の変化があらわれたら、すぐに医師に相談してください。

8 予防接種による健康被害救済制度

区で費用助成している任意予防接種で健康被害が生じた場合は、(独)医薬品医療機器総合機構及び特別区自治体総合賠償責任保険に基づく救済を受けることができます。

お問い合わせ	保健予防課庶務係	5661-5209		
	中央健康サポートセンター	5661-2467	葛西健康サポートセンター	3688-0154
	小岩健康サポートセンター	3658-3171	鹿骨健康サポートセンター	3678-8711
	東部健康サポートセンター	3678-6441	小松川健康サポートセンター	3683-5531
	清新町健康サポートセンター	3878-1221	なぎさ健康サポートセンター	5675-2515